

# 平成27年度「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」（共同利用型） 成果報告

研究課題名「ブルガリア語の-/分詞のアスペクト的特徴と機能の分布」

ヨフコバ四位 エレオノ

## 1) 研究概要

本研究では、ブルガリア語の動詞のアスペクト的特徴が-/分詞の機能の分布にはどのような影響を与えているかということ調べ、分類することを目的とした。報告者は今までの-/分詞の研究では、定過去分詞 (Aorist participle) と半過去分詞 (Imperfect participle) の働きを中心に、-/分詞の機能・意味に見られるモダリティとアスペクトの関係について考慮してきたが、本研究活動では、定過去 (Aorist) と半過去 (Imperfect) という意味特徴による-/分詞の機能の分布の分析に加え、動詞本来のアスペクト的特徴である完了・不完了にも着目し、定過去分詞 (Aorist participle) と半過去分詞 (Imperfect participle) の完了体・不完了体との組み合わせの結果で出来上がる4種の分詞の機能・意味の分類を試みた。

本研究の対象であるブルガリア語やアスペクト論に関する資料収集のため、2015年7月と2016年2月の2回にわたり、センターを訪れ、計4日間滞在させていただいた。資料収集のため訪れた施設はスラブ研究センター図書室および北大附属図書館の二館である。滞在期間中に、ブルガリア語やアスペクト論に関する資料の閲覧・収集することができた。また、センターのスタッフやセンターを訪れていた研究者とも様々な情報交換を行うことができた。

## 2) 成果

今回の研究調査で得た結果について、第9回国際中欧東欧研究協議会 (ICCEES) 幕張世界大会で、スラブ語の研究を行っている他の3名とパネル (Exploring Various Perspectives on the Study of South Slavic Verbs) を組み、報告者が Imperfectivity and Evidentiality in Bulgarian というトピックで発表を行った。

## 3) 今後の展望

今回の研究調査で収集したデータをもとに今後も本研究課題について積極的に研究を続け、成果発表を行っていきたい。

滞在中にはセンター所属の先生方、スタッフの皆様、並びに図書室のスタッフの方々に大変お世話になりました。末筆ながら、このような貴重な機会を下さったスラブ・ユーラシア研究センターの皆様にご心よりお礼を申し上げます。